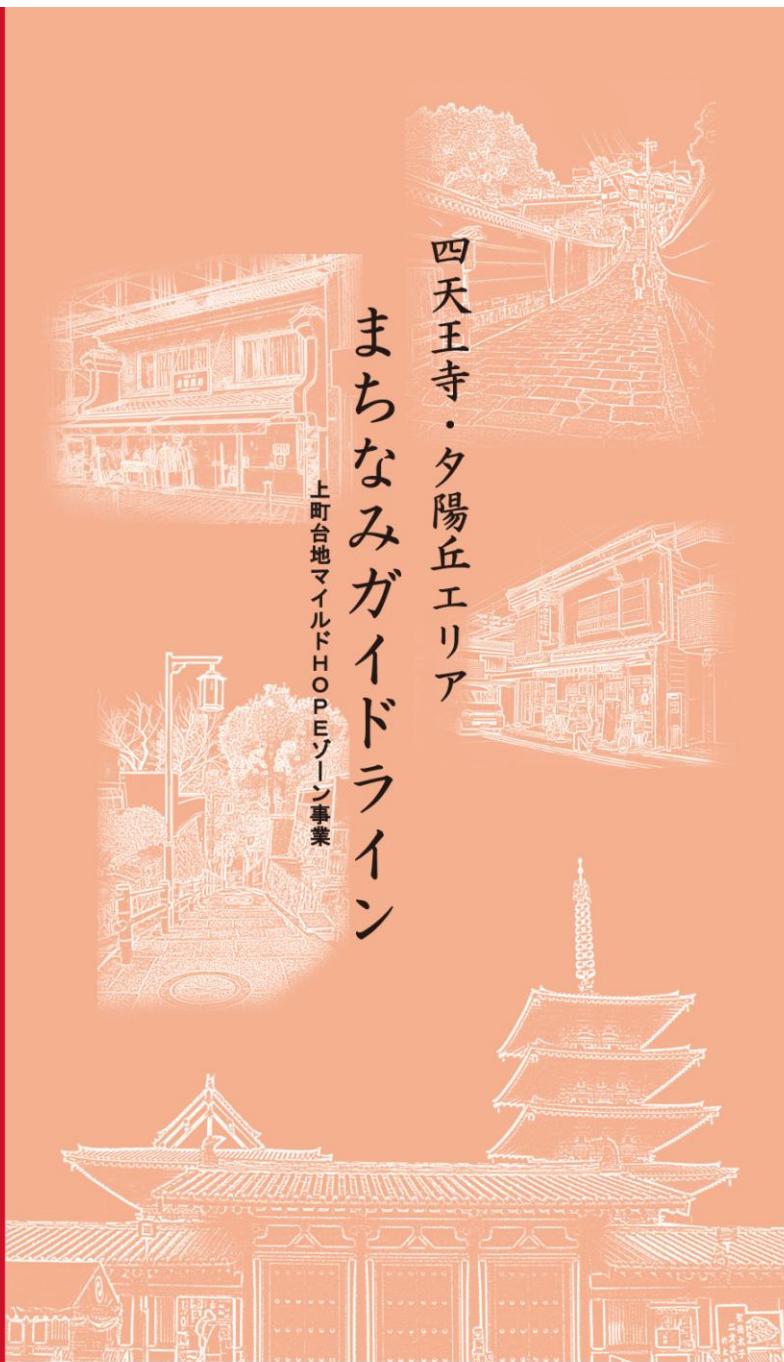


上町台地の魅力あるまちなみづくりに向けて



上町台地マイルドHOPEゾーン事業

まちなみガイドライン

四天王寺・夕陽丘エリア

上町台地マイルドHOPEゾーン協議会
四天王寺・夕陽丘エリアチーム

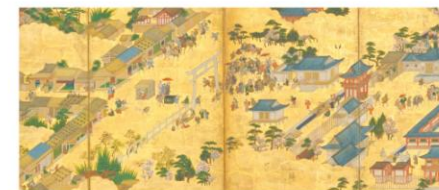
■四天王寺・夕陽丘エリアのまちなみづくりに向けて

まちなみの特徴

「四天王寺エリア」の中心となる四天王寺は、平安時代には西門の石鳥居が極楽浄土への入口として信仰を集め、本来の正門である南大門にかわって四天王寺参詣の正門と位置づけられるようになりました。中世には、その門前に参詣客を目あてとする店舗が軒を連ねるようになり、その規模は住吉大社の門前や渡辺津を凌いでいたともいわれます。現在も、その参道となる通りには近世以来のまちなみの姿を彷彿させる伝統的な様式を持つ建物が残っており、春と秋の彼岸や盂蘭盆には西門前を中心に露店が並び、参詣客でにぎわっています。

また、夕陽の名所として知られる「夕陽丘エリア」には、寺院や神社が多く、築地塀や石畳などがまちなみに風情を添えています。寺院や坂の形などにちなんだ名のついた天王寺七坂は、現在でも寺町の風情の感じられる緑豊かな散歩道として地域の人々に親しまれています。

この七坂をはじめ、この地に「夕陽庵」を結んだとされる藤原家隆の墓「家隆塚（かりゅうづか）」や、松尾芭蕉も訪れて句会を開いた大坂を代表する料亭「浮瀬（うかむせ）」跡など、貴重な歴史的資産も豊富にあります。



四天王寺住吉大社図屏風（部分）（大阪歴史博物館蔵）



口網坂「なには名所百景」より（大阪府立中之島図書館蔵）



天王寺家隆塚「旅華勝概帖」より（大阪歴史博物館蔵）



増井浮瀬夜の雪「浪花百景」より（大阪府立中之島図書館蔵）

まちなみづくりのテーマ

このような歴史やまちなみの現状を踏まえ、

夕陽に映える、歴史のいきづくまちなみづくり
～受け継がれる和の心、緑薫るやすらぎのまち～

をこのエリアのまちなみづくりの大きなテーマとし、その実現に向け、まず、先行的に

- ・四天王寺の参道にふさわしい、にぎわいと雰囲気づくり
- ・寺町の風情を活かした七坂のまちなみづくり
- ・「夕陽丘」の名にふさわしい、夕陽を眺める場づくり

に重点的・集中的に取り組んでいきましょう。

四天王寺の参道にふさわしい、 にぎわいと雰囲気づくり

まちなみづくりの方針

1. 昔ながらの建物は、修復・継承し、大切にしましょう

伝統的な様式をもつ昔ながらの町家や長屋は、かつての門前町の様子を今に伝える貴重な財産です。先人の知恵の込められた伝統の良さを大切にしながら、現代の暮らしや生業に合わせて磨きをかけ、次の世代に引き継いでいきましょう。



2. 門前町のまちなみにふさわしい工夫をしましょう

つし二階建てや袖うだつ・箱軒などの伝統的な様式を取り入れたり、四天王寺を中心とするまちの雰囲気を活かすことで、門前町にふさわしい、統一感のある魅力的なまちなみがつくれます。

また、歴史のある参道にふさわしい、にぎわいづくりを意識することも大切です。新しく建物を建てたり、既存の建物を改修したりするときには、まちなみに配慮した配置や形状とし、色彩や素材にも工夫しましょう。

特に、低層部分には、伝統的な様式を意識したデザインを取り入れる、にぎわいにつながる用途とするなど、門前町としてのまちなみ・雰囲気づくりに向けた積極的な工夫が必要です。

看板などもまちなみを演出する重要な要素として上手に活かすとともに、自動販売機や室外機、ゴミ置き場、駐車場出入口などは、まちなみの連続性・雰囲気を意識し、設置場所やデザインに配慮しましょう。



まちなみづくりのポイントと修景のイメージ

伝統的な様式の建物に見られる形態・デザインを大切に、活用する

一階店舗住宅の工夫（平野郷地区）



全体を伝統的な様式に戻し、店舗デザインにも配慮

まちなみの雰囲気に合った看板など（平野郷地区）



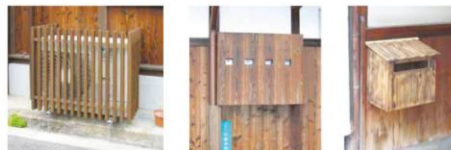
屋根上看板

袖看板



まちなみ全体との調和や低層部分のデザインを工夫し、門前町としてのまちなみづくり・雰囲気づくりを行う

設備などの工夫



室外機

メーターBOX

郵便受け

伝統的な様式



箱軒

袖うだつ